

第37号

いしかわ 成人病予防センター だより

【新春号】

いしかわ成人病予防センターだより

第37号〔2015年新春号〕

発行日 平成27年(2015年)1月発行
金沢市鞍月東2丁目6番地
電話(076)237-6262
FAX(076)238-9207
郵便番号 920-8201
郵便振替番号 00750-7-16352
E-mail smile@kenshin-ishikawa.or.jp
URL http://www.kenshin-ishikawa.or.jp/

明けまして
おめでとうございます。
本年も石川県成人病予防センターをよろしく願いいたします。



謹賀新年 2015



妙成寺 (羽咋市滝谷町)
日蓮宗の北陸本山東で、700年以上の歴史を持つ名刹です。
高さが約34メートル、日本唯一の
棚葺(とちぶぎ)屋根の五重塔があり、
国の重要文化財に指定されています。

ごあいさつ

公益財団法人石川県成人病予防センター
理事長 素谷 宏

あけましておめでとうございます。

センターの合言葉は『今健康だから受けましょうがん検診』です。

●「レントゲン検査による胃がん検診の危機」

最近のレントゲンによる胃がん検診の受診率を石川県の住民検診で見ますと、12年前の15%が最高でその後毎年のように下がり続け平成25年ではついに10%を下まわり9.2%にまで落ち込んでしまいました。

一方、内視鏡検査による胃がん検診の受診者は平成20年から毎年1,000人から2,000人ずつ増えています。石川県でレントゲン検診と内視鏡検診による受診者の合計は平成23年から年間約5万人で横ばい状態をkarouうじて保っています。

これは、レントゲン検診離れで減った分を内視鏡検診で支えている状態です。

しかし、レントゲンであれ内視鏡であれ全体的にみて胃がん検診は全国的傾向として、6年前から受診率の伸び悩みを示していますので「一層の普及啓発が課題とされています」。

●「ほとんどの胃がんは萎縮性胃炎から発生する」

近年胃がんの原因は、慢性萎縮性胃炎にあることが広く認められるようになり、胃粘膜の萎縮度を判定することによって将来の胃がん発生の危険度を予測できるようになりました。その慢性萎縮性胃炎の原因が、ヘリコバクター菌感染によるものであることも広く認められています。

そこで、このヘリコバクター菌感染と萎縮性胃炎の程度を血液検査で判定するABC検査が、人間ドックや職場検診で胃がん発生の危険度判定として行われつつあります。

そして、その危険度の程度により翌年から内視鏡検査による個人別に異なる管理精密検査が行われます。

●「しかしこのABC検査を住民検診に用いることは時期早尚」
将来の胃がん発生の危険度が少ないとされるA群の精度が不完全であることに加えて、検査後の翌年からの管理検診の煩雑さのため住民検診に用いることは適当でないと考えられています。

●「レントゲン検査でも萎縮性胃炎の診断は可能」

萎縮性胃炎の程度を血液検査によらない今までと同じレントゲン画像診断で行う方法の検討が永年詳細におこなわれてきました。最近では住民検診に使えるところまで来ています。

●長年培われてきたレントゲン検査の技術を検診に生かすために当センターは読影医、レントゲン技師、そして現場職員が全員一致協力してレントゲン検査による萎縮性胃炎診断を住民検診に組み入れ、胃がん検診サービス向上を検討していきます。

「今健康だから受けましょう がん検診」



公益財団法人 **石川県成人病予防センター**

日本対がん協会石川県支部・結核予防会石川県支部

マークコンセプト 石川県のイニシャル「i」と成人病予防センターのイニシャル「S」との間のシルエットをモチーフにデザイン。イメージは駆けつけ寄り添う天使や看護師の如く、熱心に検診する技術の如く、石川県と太陽の如く。

新入社員紹介

「よろしくお願いいたします。」



専務理事兼事務局長
中嶋 廉幸

私こと専務理事兼事務局長として平成26年7月に着任いたしました。長らく環境問題に関わってきましたが、健康福祉の分野は初めての経験です。

先ごろ物故された私の私淑する経済学者の宇沢弘文氏が「社会的共通資本」という考え方を述べておられます。

国民の「健康」は「環境」や「教育」などと並んで、政府の節度ある統制が必要な分野であって経済取引の対象として優先されるべきではないということです。私もそのような思いを持って県民の健康確保のために励んでいきたいと思えます。関係者の皆様のご指導をいただきますようお願い申し上げます。

さて、その宇沢先生が熱心に取り組んできた分野に「地球温暖化」問題があります。皆さんも近頃の異常とも思える大雨、巨大台風や竜巻など気象変化の激しさを感じておられるのではないのでしょうか。

人間の活動がこれまで以上に大きく自然環境に影響を与えてきていることは科学的にも証明されています。IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の報告書を見ると、世界中の科学者がいかに切迫感を持っているかが分かります。

地球温暖化問題や既に4年余りを過ぎよう

としている東日本大震災は、自然は時として人知を超えた猛威をふるうことと、その備えを常に忘れてはいけないということを再認識させてくれました。

さらには、安全だけでなく、食糧や水、エネルギーの確保も他人任せにせず、自分自身で考え行動する時代になったとも言えるのではないのでしょうか。

そして、(多少無理気味の筋道ですが)自分の健康も自分自身で守る努力をする時代なのです。皆様も、家族や市町から言われずとも積極的に検診や人間ドックを活用して自身の健康確保に努めていただきたいと思います。そして、今年1年が安全で健康な毎日でありますように。



業務課 書記
岩坂 昌和

平成26年4月より晴れて職員採用となりました岩坂昌和です。

3年間パート職員の外勤事務として石川県各地を廻り、検診業務や受付業務等をさせていただきました。

長さ10mを超える大型バスを運転することはとても不安でいっぱいでしたが先輩方がやさしく指導してくださったので、どうにか運転できるようになりました。

今は、渉外係として、市町や事業所を担当

させていただき、よりよい検診が提供できるよう、また、お客様(受診者)に安心して受診していただけるように接する事を心がけています。

まだまだわからないことがたくさんあり、勉強の日々が続いています。若者らしく明るくはつらつと、社内もお客様にも良い現場づくりができるよう励んでいきたいと思えます。ひやくまんさんのように七転八起で、岩坂にお願いして良かったと思っていたただけのように頑張りますので声をかけてください。これからもよろしくお願いいたします。

編集後記

検(健)診がスタートしたかと思えば、あっという間に12月を迎えました。

夏には豪雨による災害が広島県はじめ各地で発生しました。台風の直撃を受けた日本列島でしたが、検(健)日程も9割方終えることができ、市町、職域の皆様へ感謝、感謝です。ありがとうございます。

今年もホットな情報発信を心がけ、市町、職域との繋がりを大切に事業に取り組みしていきますので、よろしく願います。

(編集委員会)